

250224 行徳町屋めぐり② 資料

# 行徳の街並みを楽しもう！

行徳まちづくり協議会

## Contents

- ・行徳略史
- ・実はスゴイ！ 行徳の町並み
- ・行徳の街並み特性・建築物の特徴
- ・鑑賞のポイント
- ・「行徳景観まちづくりビジョン」について



# 寺社景観



# 町屋景観



# 行徳の略史

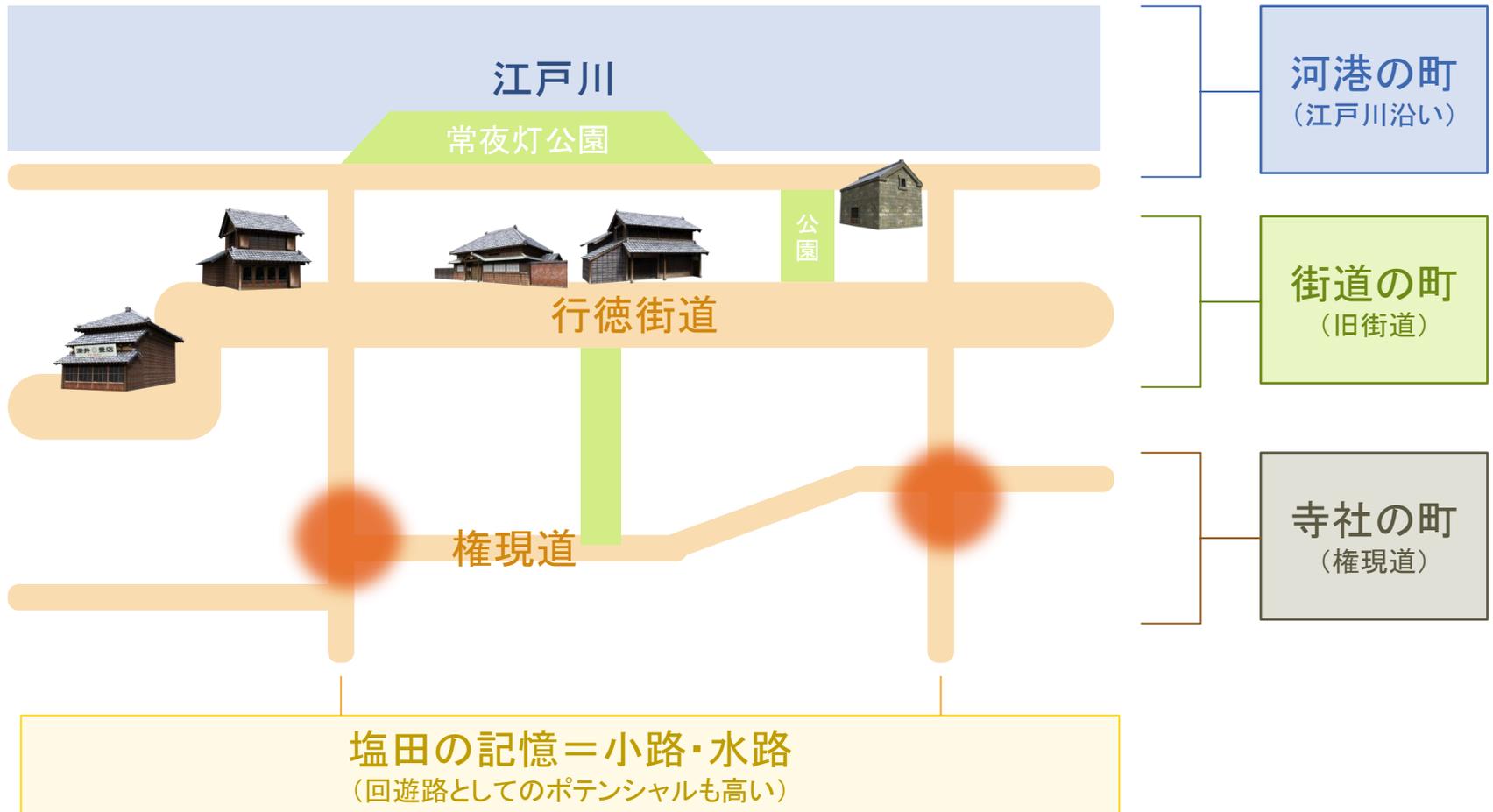
- 1372年 「行徳」の地名の初見(香取文書)。香取神宮の川関が<sup>かとり</sup>おかれていた。
- 1530年頃 小田原北条氏の支配下。当時から塩を納めていた
- 江戸初期 **幕領化**⇒戦略物資である塩を確保すべく、手厚い保護を受ける
- 江戸後期 **河川交通**の要衝・**成田街道の宿駅**として発展。**寺社も集積**。  
「行徳千軒 寺百軒」とうたわれるようになり、「江戸名所図会」にも描かれた。
- 明治期 寺社建築の技を生かした**神輿づくり**が産業化する一方、**陸の孤島化**が進む  
江戸神輿の半数～4割が行徳製とも。 Cf.江戸川放水路・総武線
- 1955年 市川市と行徳町が合併。翌年南行徳町が合併
- 1969年 地下鉄東西線西船橋まで開通。ベッドタウンとして急速に変貌⇒現在

・明治～昭和の「陸の孤島化」により、旧市街が保全された  
・高度成長期の開発圧も、主として区画整理された新市街地へ向かった  
⇒東京30分圏内としては異例に、古い街並みが残った

※ 行徳の歴史の入門書としては、行徳町づくり協議会「行徳の歴史と神輿と祭り」(2022)がオススメ

# 町並みを構造的に捉える

- 江戸時代以来の道路形態がほぼそのまま残っている
- 河港、街道集落、塩田の町…としての性質が町の形によく表れている



# 実はスゴイ！ 行徳の町並み

- ・千葉県で伝統的な町屋が残る集落＝65箇所
- ・カウントし直すと、町屋の残存数は約20棟。  
千葉県第13位の残存棟数となる

参)伝建地区の佐原が45棟

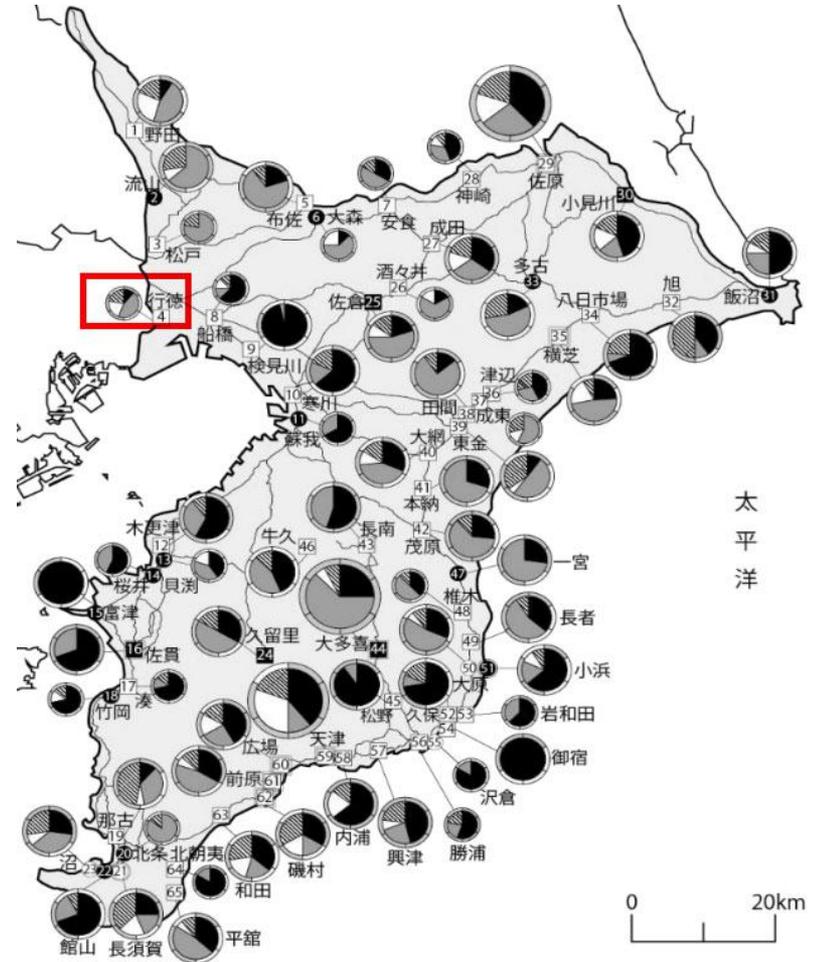
- ・東京至近であることを考えると、結構スゴくないですか?? 専門家も高い評価。



これだけ残っているのは大したもの。行徳を見直しました！  
全国町並み保存連盟：福川裕一会長

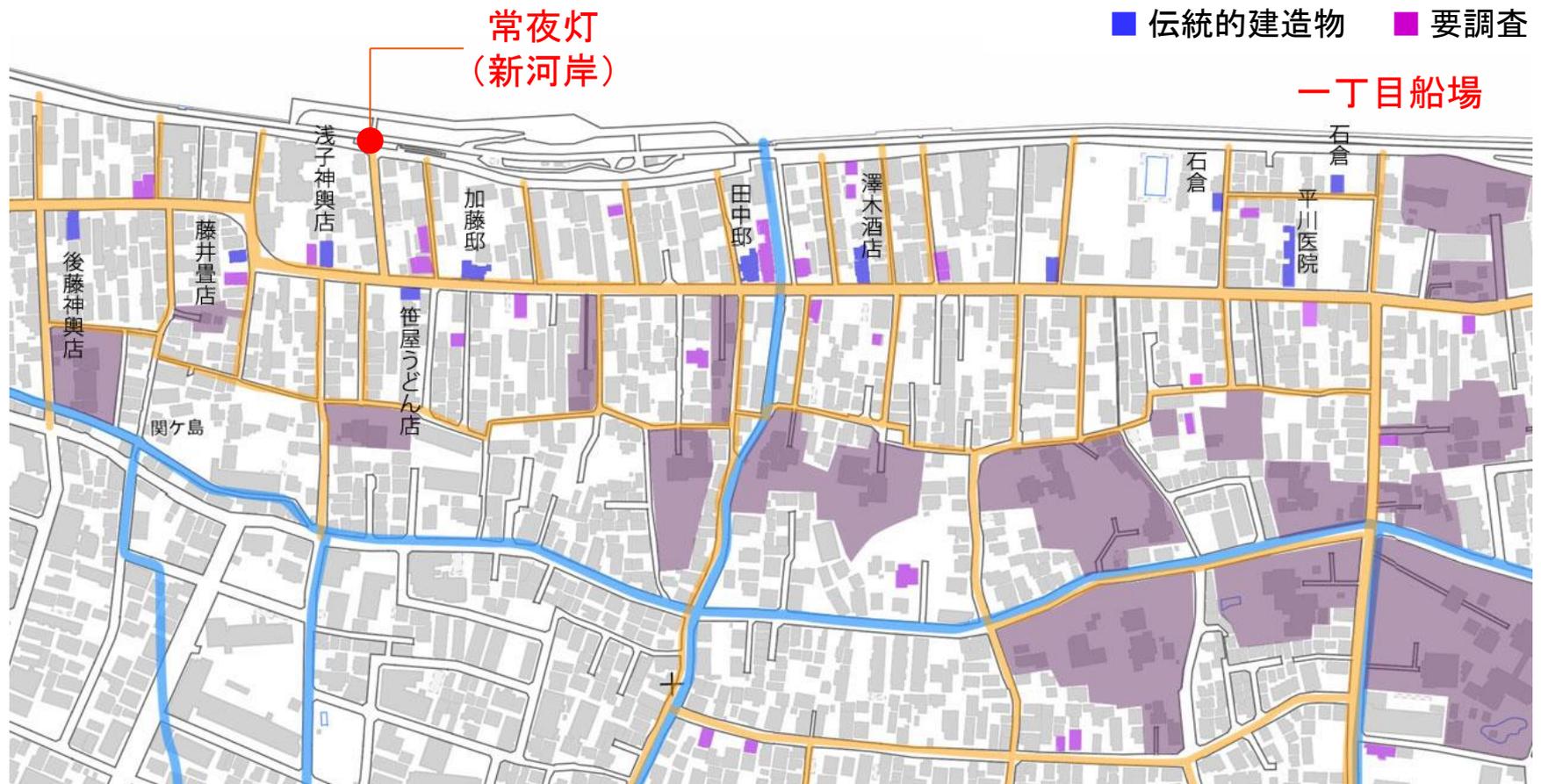
広いエリアではないが、  
よくまとまって残っている。  
景観まちづくりを！

新潟大学：岡崎篤行教授



出典)岡崎篤行・佐藤和生「千葉県における町屋群の残存概況及び棟向きの分布」2023.03

# 歴史的建造物の残存状況



出典) 行徳町づくり協議会「行徳景観まちづくりビジョン」(2024.05)

- ・いわゆる「古民家」として類別されるのは、昭和25年(建築基準法)以前の建造物
- ・図示範囲内で、確実なもの11棟、不確実なもの約20棟

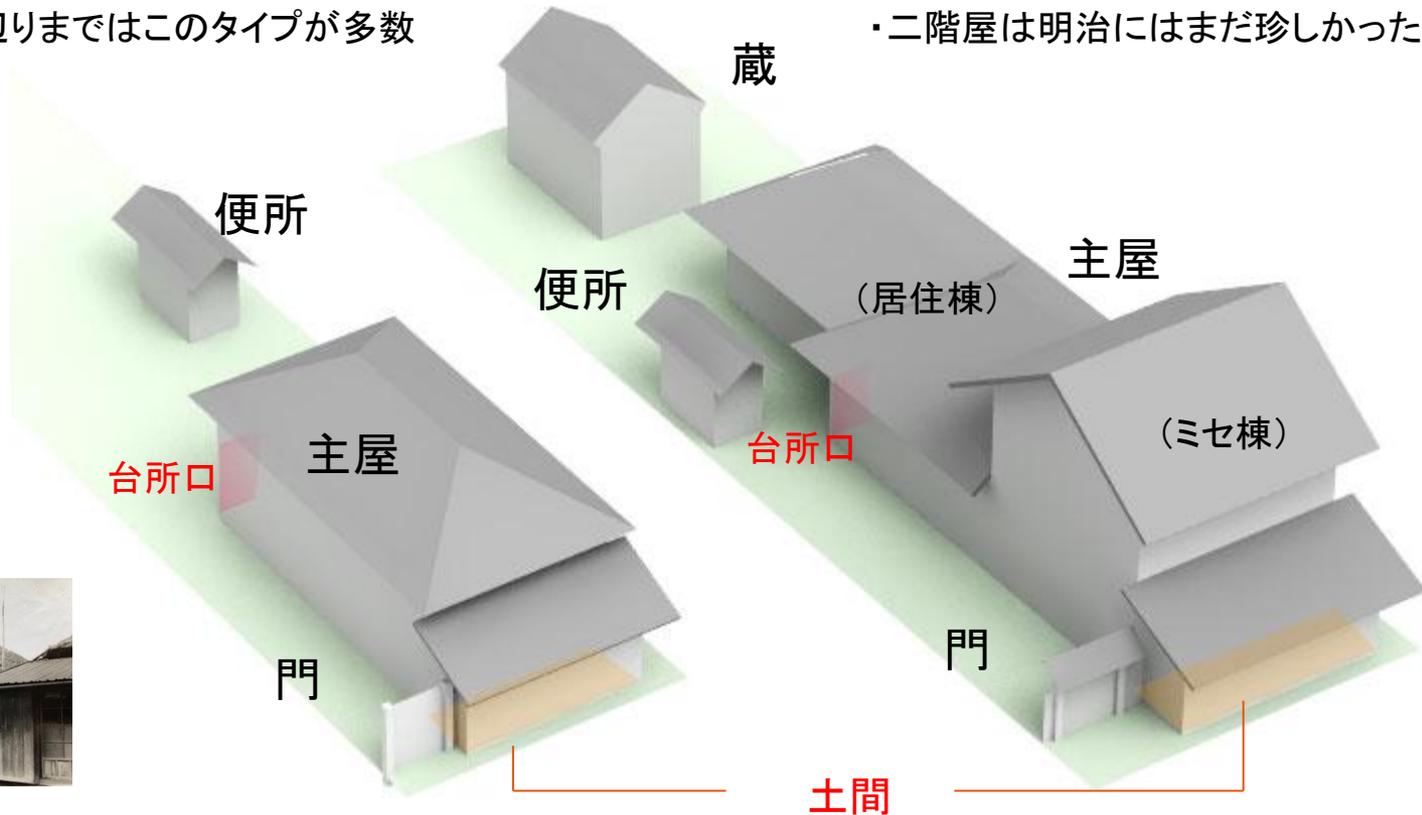
# 行徳の町屋（模式図）

## 一階型

- ・農家建築が町屋化した形態？
- ・昭和初期辺りまではこのタイプが多数

## 二階型

- ・ミセ部が独立・発達して二階化
- ・二階屋は明治にはまだ珍しかったとの談



大西基之氏提供

- ・基本的には関東の在郷町でよく見られるスタイル
- ・千葉県特有の建築様式として「寄棟・妻入り型(1階)」がかつては多く見られた

# 形態の多様性

## 寄棟一階型 妻入り



千葉県特有の建築様式で、他の都道府県ではあまり見られない。

## 寄棟一階型 平入り



旧笹屋うどん。かつてはそれなりの数があったようだが、、、

## 平入2階型A



浅子御輿、後藤神輿、篠田邸ほか、いかにも関東型というマッチョな造形

## 平入2階型B



澤木酒店、田中邸、旧中島米店ほか。低く二階を構えた町屋

## 混合形態



寄棟・妻入り型町屋が高層化したような独特の形態



寄棟・平入型町屋が二階化した形態。10年ほど前まではもう数棟あった

## 洋館



平川医院。良質な洋風建築は日本の街並みにもマッチする。

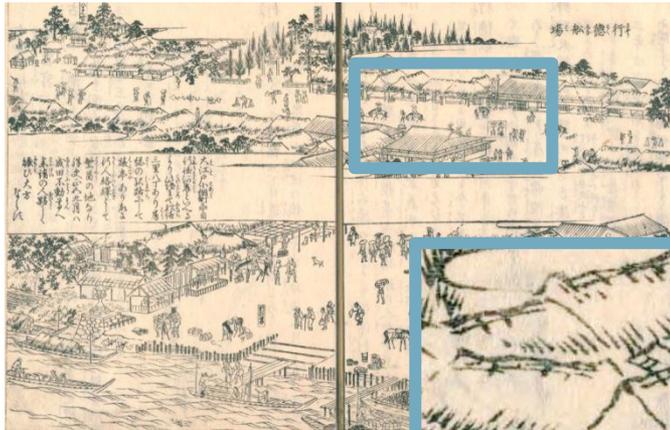
## 近代住宅



加藤邸。かつての塩問屋で座敷棟が直接街道に面している。凝った建物

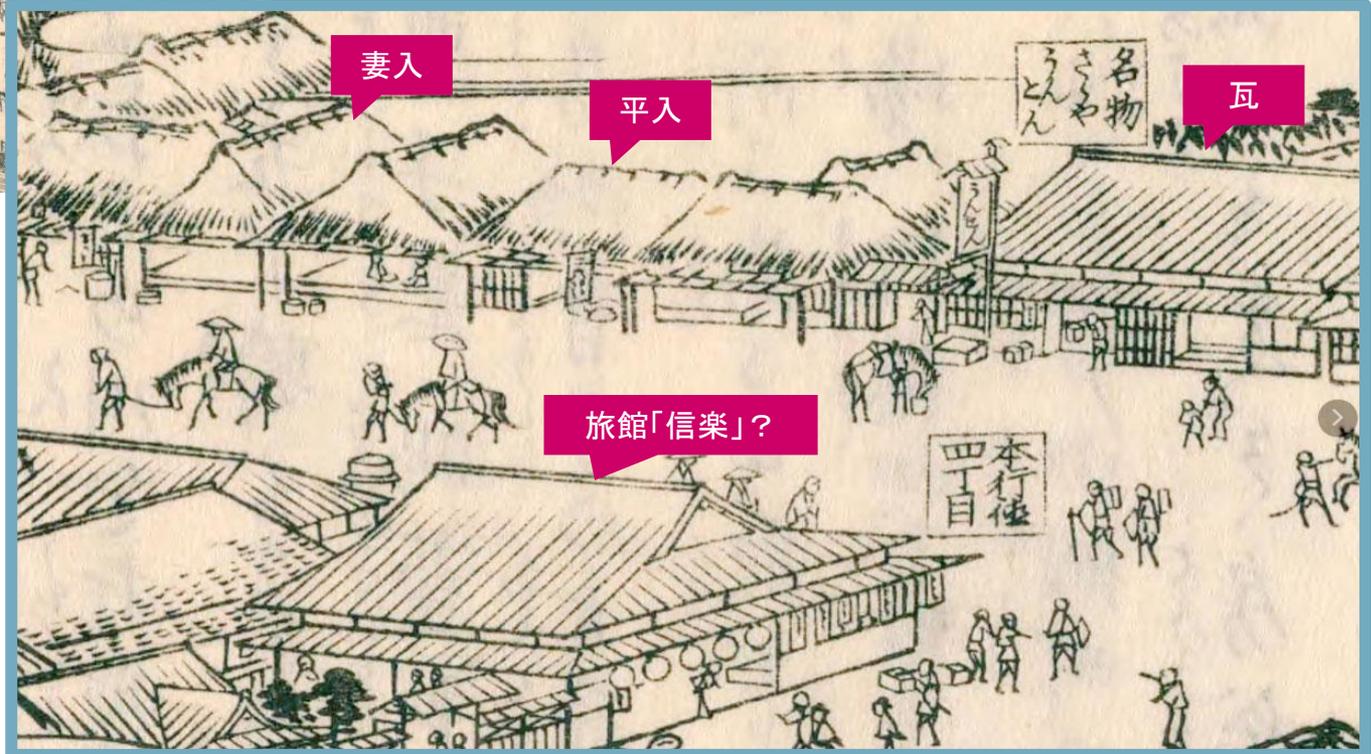
- 建築形態が多様（江戸～昭和初期まで。在郷町らしい特徴といえる）
- 狭いエリアに集中して残る（町歩きの観点からは有利な特徴）

# 参考) 江戸時代に基本形が成立



国立国会図書館「江戸名所図会 7巻」(1834)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2563399/1/8>



- 妻入り／平入り／茅葺／瓦葺など、多様な形態が既に混在していたことがわかる
- 神輿屋のような、本二階の建物はどうもなさそう？

# 「マチバ」としての行徳

～「短冊形地割」に着目してみよう～

明治期の  
屋敷土地割

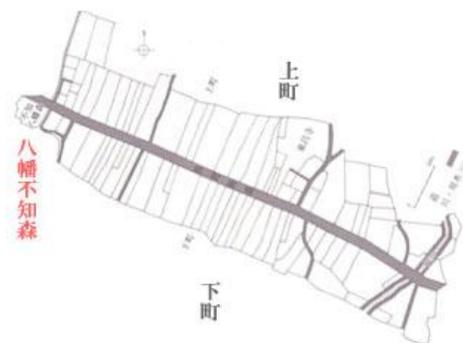
市川／本八幡／行徳  
同一縮尺

市川  
(明治中期)

明治24年人口  
3,733人

本八幡  
(明治9年)

明治24年人口  
2,498人



行徳  
(明治9年)

明治24年人口  
7,726人  
千葉県6位

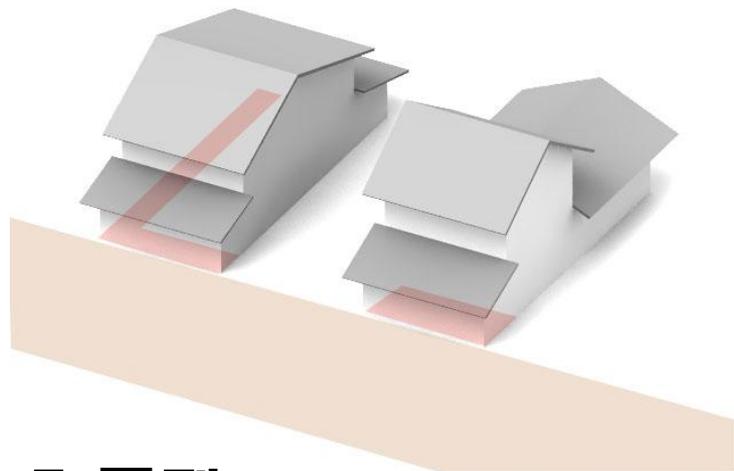


地図：市川市『市川市史 民俗編』(2020)  
人口：陸軍省総務局「徴発物件一覧」(1893)

# 鑑賞のポイント① 町屋型／屋敷型

京町屋型

在郷町屋型

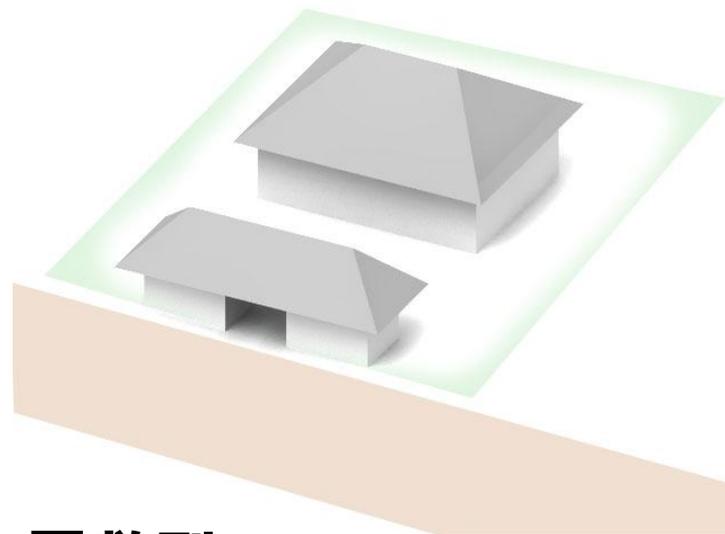


## 町屋型

日本の伝統的な「都市型住宅」。

- ・道路に面して敷地一杯に建つ
- ・間口が狭く、奥に長い
- ・職住一体型。正面にミセを備える
- ・関東／関西で成り立ちが異なる？

**本行徳を中心に街道沿いに見られる**



## 屋敷型

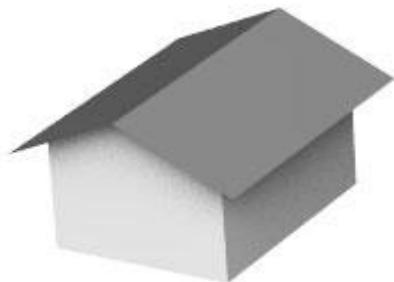
農家・武家住宅などに見られる形式

- ・道路と主屋は直接面さない
- ・敷地は一定の広がりを持つ
- ・職住分離
- ・全国的に多様なバリエーション

**裏通り、本塩・妙典に多く見られる**

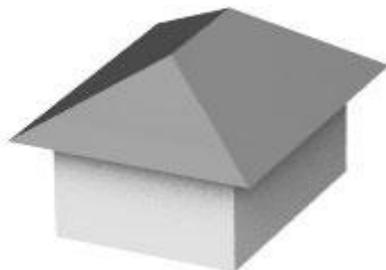
※ 町屋を含む日本の建築史の入門書としては 光井渉『日本の伝統木造建築 その空間と工法』(市ヶ谷出版社 2016)などがオススメ

# 鑑賞のポイント② 屋根形態・妻入り／平入り



## 切妻

最もオーソドックスな形だが行徳の一階屋では見られない。二階型の町屋2Fに見られる



## 寄棟

行徳では割と一般的に見られる形式。昭和初期頃までは、茅葺の建物が多かった



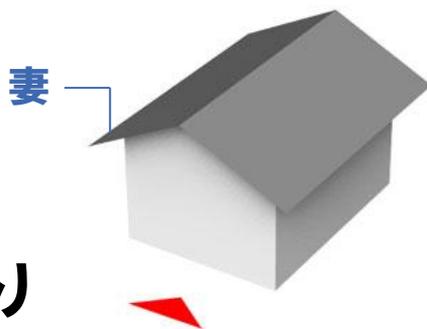
## 入母屋

格式の高い屋根形状であり、寺社や城郭での使用が主。行徳の古民家では見られない。

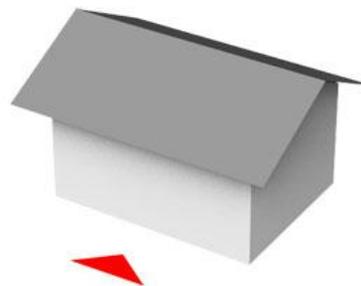


## 宝形

寺社での利用が主。徳願寺経蔵など。構造上、正方形の建物でしか使えない



## 妻入り



## 平入り

# 鑑賞のポイント③ 細部意匠

## 屋根

名字を入れた鬼瓦、細工に凝った雨樋も見られる



## 開口部

伝統的な格子のほか装飾的なガラス戸も。神輿屋の大判ガラスはショーウインドウの役割を果たした



## しつらえ

旧家ならではの家具類や細部意匠！



## 軒

現代では考えられない大径材の使用。出桁造り、凝った垂木、彫刻などの細工も見られる。



# 本日見学する旧笹屋うどん



- ・行徳ではおそらく唯一、江戸時代(安政元年=1854)に確実に遡る建物
- ・大径材をふんだんに使用。正面の丸太梁、極太の腕木、垂木など
- ・鬼瓦に施された「影盛り」、棟の造形なども見どころ

- ・旧「ミセ」部を見学させていただきます
- ・今回は特別に開けていただきますが「生活空間」ですのでご配慮ください

※さらに詳しく知りたい方には、市川市「市川市の民家と町並み・家作職人」(2019)がオススメ

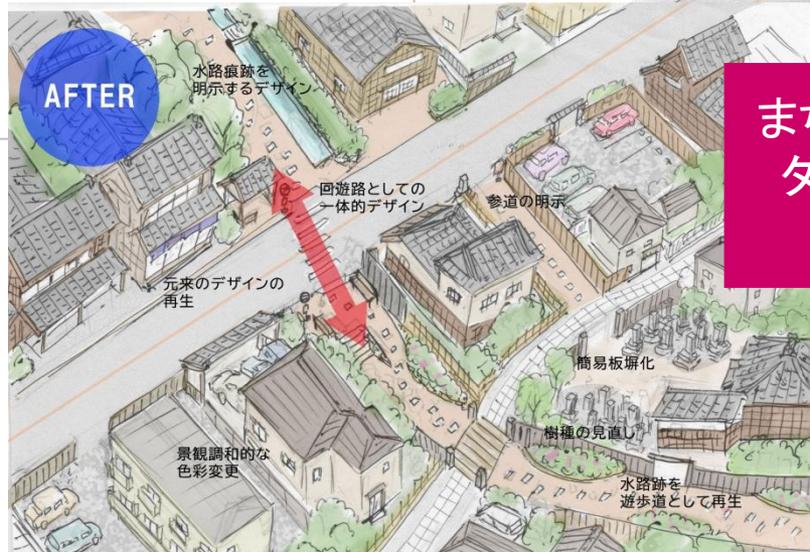
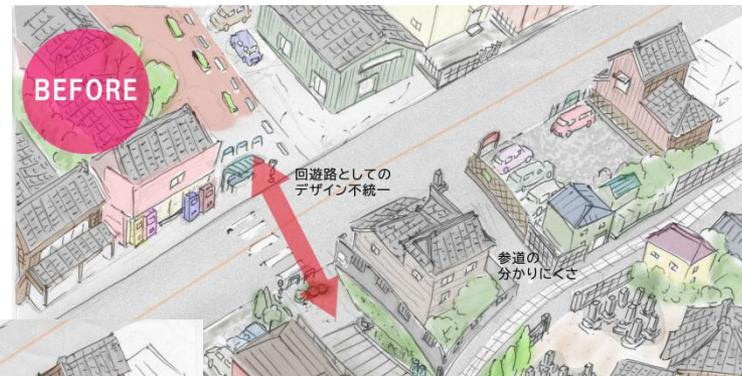
# 行徳景観まちづくりビジョン

- ・折角よい街並みが残っている行徳だが、現状、景観地区等の指定はない
- ・住民サイドからの景観まちづくりの提案・実行プラン



#### Contents

- 1) 本ビジョンの位置づけ・これまでの経緯
- 2) 本ビジョンにおける「景観まちづくり」の定義
- 3) 行徳「らしさ」とは？
- 4) 行徳の景観特性
- 5) 具体的な修景提案



まち協Webより  
ダウンロード  
できます

本日の  
アンケート

